

コロナで止まっていた
2年間を取り戻すべく、
活動が活発化しています!

トラ保護基金

P2

・中央インドの5つの州で活動を広げています

トラの未来に重要なトラ生息地で、コリドーを守る活動の新たな取り組みを計画しています。

・森林火災を防ぐために

バンタブガール・トラ保護区森林局に8台のリーフブローアとウォータータンク40個を届けました。

ゾウ保護基金

P4

・東京都知事に対して

象牙販売を禁止する条例の検討を求める提言が、「象牙取引規制に関する有識者会議」の報告書に盛り込まれました。

・日本を含む国々が

象牙の違法取引に関係していることを示すデータが、ワシントン条約の締約国会議で検討される見通しとなりました。

・南インドの最前線で

活躍するスタッフに、パトロール用ザックとサーチライトを贈呈しました。

©WTI

©田中光常

イリオモテヤマネコ保護基金

P6

・ユネスコ世界遺産委員会

から求められている「西表島観光管理計画」の改定作業部会に参加しています。

・イリオモテヤマネコの交通事故を防止するために

夜間パトロール活動、島内の子ども達を対象としたヤマネコのいるくらし授業を継続して実施しています。

・イリオモテヤマネコの日

(4月15日)に、2年ぶりとなるイベント「知ろう!学ぼう!イリオモテヤマネコ」を開催しました。

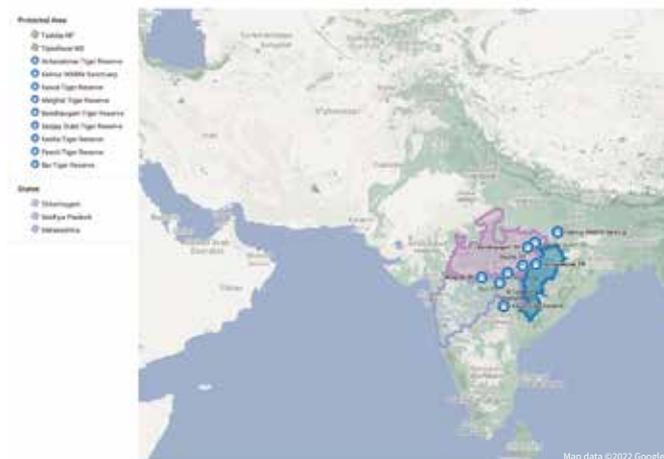
©村田行

中央インド全体を見る

地球上の野生のトラ生息数は今秋、生息国が調査結果を提出しIUCNがまとめ正式に発表しますが、大体3800頭位ではないかと推測されています。13の生息国の中にはカンボジア、ベトナム、ラオスのように野生での目撃が途絶えている国もありますが、インドは保護に尽力し2018年のデータで2967頭と発表、トラ保護区も52カ所に増加しました。インドの中でも特に中央インドはトラの個体数も多く、保護が重要な地域です。独り立ちした若トラは親元を離れ自分のテリトリーを求め分散していくので、保護区だけでなく保護区から保護区に続くコリドーとして使う森の保護がトラの遺伝的多様性の保全上欠かせません。トラの未来はこの中央インドの保護管理に委ねられていると言っても過言ではありません。そこで現在、トラ保護基金の現地パートナーWTI(インド野生生物トラスト)の活動地は現在チャ

ティスガル、マディアプラデシュ、マハラシュトラ州、ビハール州の一部、テランガナ州と広範囲になっています。

Central India Landscape



◎ 森林火災との闘い



昨年、インドでは4月1-14日までの2週間で82,170件の森林火災が起き、ここ数年の倍近い件数でした。気温上昇は世界的な問題ですが、インドでは広大な森が焼かれ、インド森林調査(FSI)の発表では21.4%の森林が消失しました。特に中央インドは最も脆弱な地域の1つで昨年は約28,000件(4,411件の大規模な火災)が報告されました。自然発火以外に3月から5月は毎年、中央インドの地域住民は非木材林産物(ジャムやお酒を造るマフアの花やこの地域でたばこにしているテンドウの葉)を取るために、火をつけます。

そこで、JTEFは森林火災の延焼食い止めに効果的である落ち葉を吹き飛ばすリーフブローア-8台とウォータータンク40個を、中央インドマディアプラデシュ州にあるトラの重要な生息地、バンタブガール・トラ保護区森林局に届けました。



贈呈したリーフブローア-

今後は他の保護区にもこのリーフブローア-や、水場から離れた地域に水タンクを運ぶトラクターやジープを贈ります。



寄付のお願い

森林火災を防ぐためのリーフブローア- (1台約8万円) や、水タンクを運ぶトラクター、耐火手袋、ゴム長靴などの装備を保護区森林局へ送ります。ぜひご協力ください! (目標40万円)

◎人と野生動物との衝突への取り組み

2002年以降、隣接するチャティスガル州からマディヤプラデシュ州に移動するアジアゾウが増えてきていて、2018年には40個体の群れと3頭の子ゾウがバンタブガール・トラ保護区に移動しました。この4年間でこの群れはバンタブガールを彼らの新しい繁殖地にしました。

中央インドはトラの密度が高く、さらにゾウが移動してきたため、人と野生動物の衝突が増加しています。2020年だけでも森林局は、この地域の人間の居住地に侵入したゾウの事件が163件ありました。2020年の9月から11月には3頭のトラ亜成獣の毒殺が発見されました。2021年の9月には井戸に落ちていた麻袋の中から「T-32」と命名されていたメストラの死体が見つかりましたが、その死体には金属のワイヤーが巻かれていました。

中央インドでは2021年に127頭のトラの死亡が報告され、最多はマディヤプラデシュ州の42頭、続いてマハラシュトラ州の27頭でした。この地域ではトラの個体数が急激

に増えていますが、生息地は足りず縄張り争いから死んでしまうトラもいます。しかし、この自然要因とは別に、偶発的または作為的に密猟を引き起こす罠や感電死はトラにとって明らかな脅威となっています。



罠にかかったトラ(C)WTI

◎「グリーン・コリドーの守り手」によるコリドー監視と保護

野生動物たちが保護区間を安心して行き来できるように、その間にある森、コリドーを守るべく、コリドーの守り手を増やすことは地元の人たちが野生動物との共存を実現させる道です。WTIは今までアジアゾウの生息密度の高い南インドを中心に5つの地域（北西インド、北東インド、中央インド、南インド）でゾウのコリドー保護プロジェクトを行ってきました。今年はこのモデルを拡張して（トラとゾウでは利用するコリドーの条件は異なりますが）、対象となる中央インドでタイガーコリドーを確保していきます。

グリーン・コリドーの守り手として関わる村ベースの組織や個人のネットワークを作り、コリドーに影響を与える様々な人為的脅威に対処します。地方政府、州政府、中央政府、およびその他の利害関係者と良い関係を築き、コリドーの機能を妨げる新たな脅威の発生防止が目的です。コリドーを使うトラやその他の野生動物たちの移動を確保することが重要です。



「グリーン・コリドーの守り手」説明会に参加する村の人たち

□ 南インド・ケララ・ゾウ保護プロジェクト

インドには、世界全体（48,000 - 52,000頭）の60%を占める30,000頭のアジアゾウが生息しますが、その約半数が集中するのが南インドです。そのうち、ケララ州でゾウの生息地のつながりを維持し、ゾウが自由に移動しながら安定して暮らせるようにするためのプロジェクトです。



ワヤナッド野生生物保護区のゾウ ©WTI

□ 国内象牙市場閉鎖プロジェクト

◎ 東京都「象牙取引に関する有識者会議」に対する働きかけ

2020年1月に開始された東京都の「象牙取引規制に関する有識者会議」は、新型コロナウイルスの蔓延によって度々中断しつつ、2022年3月、報告書案を採択して終了しました。この報告書には、(東京都内で) 狭い例外を除いて象牙販売を禁止する条例の検討を知事に求める提言が盛り込まれ、JTEFが求め続けて来たことが実現しました。しかし、すんなりとここにたどり着いたわけではありません。今年の1月の会合に提出された報告書骨子案には、「提言」が項目としてすら、掲げられていなかったのです。東京都の及び腰の姿勢が急きょ大転換したのは、有識者会議委員の努力のほか、JTEFと海外のNGOが協力して各国政府に東京都の状況を注視するよう働きかけたり、連名で知事宛にレターを送ったりしたことが影響したのではないかと考えています。



今後は、提言を受けた東京都が実際に条例作りに取り組んでいくよう求めています。

★★★ ご寄付のお願い ★★★

11月に南米、パナマでワシントン条約締約国会議が開かれ、いよいよ日本の象牙市場閉鎖問題の決着が期待されます。遠いパナマまでの渡航費と15日間の滞在費の1部として、40万円のご寄付を皆さまにお願いしたいです。応援、よろしくお願いします！

ケララ州の「ワヤナッド野生生物保護区」は、344.44km²の面積を持ち、ゾウのほか、トラ、ガウル（世界最大の野生ウシ）、クジャクなどが生息しています。ニルギリ生物圏保護区の一部を成し、北東側ではバンディプール国立公園・ナガラホレ国立公園（カルナータカ州）と、南東側ではムドゥマライ国立公園（タミルナードゥ州）と接しています。

ワヤナッド野生生物保護区の現場スタッフは、現場を実際にパトロールし、密猟、盗伐、森林火災などに目を光らせる重要な存在です。そこで昨年12月以来、保護区スタッフたちに、116本のサーチライト、124個のパトロール用ザックを順次贈呈してきました。



ワヤナッド野生生物保護区のスタッフにザックとサーチライトを贈呈

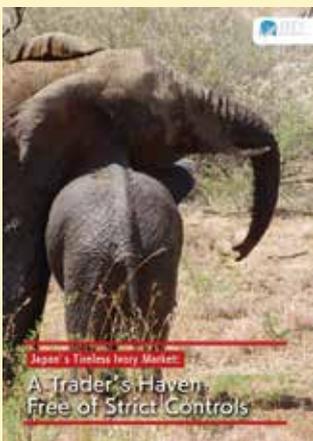
◎ ワシントン条約会議における活動

第74回常設委員会（SC74）が、2022年3月7～11日、フランスのリヨンで開催されました。

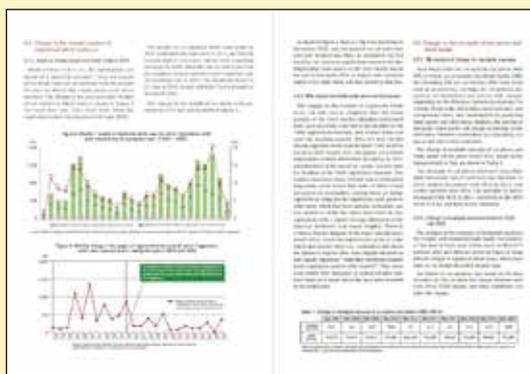
JTEFは、会議に先立ち、日本政府による国内象牙市場の規制にいかん重大な問題があるかを報告書にまとめて公表しました（2月）。これが締約国の目に留まり、国内象牙市場閉鎖を積極的に進めるよう求めたアフリカ諸国の提出文書にも引用されました。

そのうえで、JTEFは登録オブザーバーとして会議に参加しました。会議の合間には、世界のNGOと協力し、関係国に日本の国内象牙市場の問題点を説明し、日本の象牙市場を閉鎖することの重要性を訴えました。国内象牙市場閉鎖の議題が審議された際には、17のNGOを代表して発言し、日本の合法象牙市場はその規模の点からも、現にそこから象牙が違法に海外流出しているからも、圧倒的な注目に値することを強調しました。

各国政府からは、イスラエル、米国、EU、中国、ブルキナファソ、ガボン、英国が、市場閉鎖を追求していくべきだと指摘しました。特にアフリカの2か国は日本市場の問題をとりあげました。さらに、EUの発案により、11月の第19回締約国会議（CoP19）に提出される象牙の押収データ分析報告書（ETISレポート）の中で、（日本など）合法的な国内象牙市場をもつ国にかかわる違法象牙の押収記録を分析するようSC74が条約事務局に要請しました。日本の違法輸出の実態が報告されて日本の市場が違法取引の一因となることが露わになれば、日本ももはや、「我が国の市場は違法取引に関係していない」と言い訳できず、市場閉鎖からの逃げ道が断たれることになります。



JTEFが公表したレポート



西表島観光管理計画の改定作業

2021年7月、ユネスコの世界遺産委員会は、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産に登録しました。同時に、IUCN（世界自然保護連合）の勧告どおり、「西表島の来訪者数を現在のレベルにとどめるか、削減すること」を日本政府に勧告することを決議しました。この決議へ対応するための「持続的な西表島のための来訪者管理計画（事務局 沖縄県）の改定作業が、現在行われています。

やまねこパトロールは、会議が公開で開催されることとなった第2回作業部会から参加していますが、現時点での事務局案は、廃棄物のモニタリング計画が全くないほか、ひっ迫している上水道供給の問題を過小評価した計画となっています。また、来訪者数に関しても入島者数を絞ることを断念し、「利用を分散させる」ための「混雑カレンダー」を利用者に示しつつ、入島状況を「慎重に監視する」という表現にとどまっています。世界遺産委員会決議への対応として不十

分なものと言わざるを得ません。計画のとりまとめは2023年2月となっていますが、やまねこパトロールはこれからの西表島観光の行く末を左右する重要な計画である観光管理計画が、実効性を持ち、将来にわたって持続的な観光を実現できるものになるよう、これからも積極的に働きかけていきます。



世界遺産登録区域「ピナイサーラの滝」の遊歩道。
路圧によって登山道の表土流亡や岩の浸食が進んでいる。

ヤマネコの いる暮らし 授業

2021年度の上原小学校のヤマネコのいる暮らし授業は、毎年恒例となっている上原小学校4年生のほか、これまでヤマネコのいる暮らし授業にご協力くださった江郷下智美先生の新たな赴任先である西表小学校、そして、初めての取組となる未就学児を対象としたイベントを上原幼稚園で実施しました。授業を実施した上原小学校、西表小学校では、生徒たちによってイリオモテヤマネコの交通事故防止を呼び掛ける普及啓発動画が作成されHPなどで公開されています。



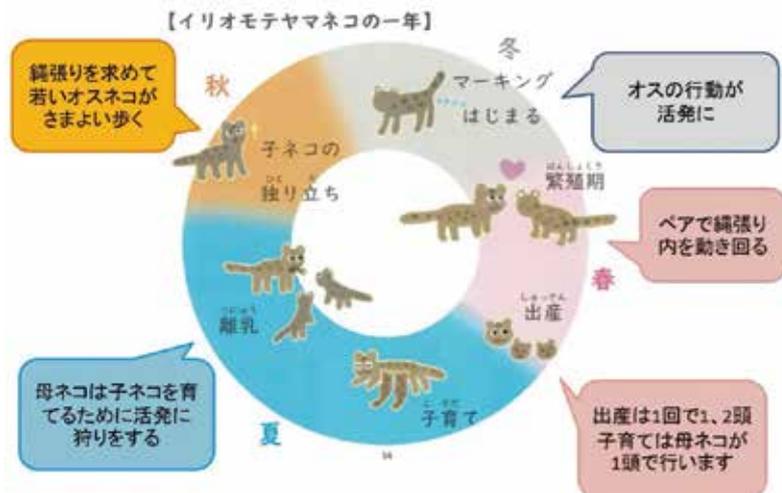
上原幼稚園でのヤマネコのいる暮らし授業



西表小学校のHPで公開されている普及啓発動画
<https://www.taketomicho-boe.jp/13/>

イリオモテヤマネコの日

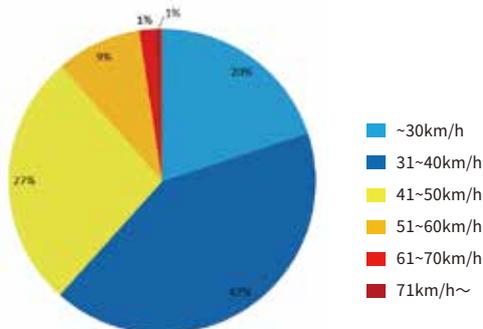
毎年4月15日は、竹富町条例で定めるイリオモテヤマネコの日。2020～2021年は新型コロナウイルス感染拡大の影響でパネル展示のみになっていましたが、今年はオンラインでのイベント「知ろう!学ぼう!イリオモテヤマネコ」(後援:環境省西表野生生物保護センター、竹富町教育委員会)を開催しました。やまねこパトロールからはクイズなどを交えてイリオモテヤマネコの生態の解説や夜間パトロールの活動報告を行ったほか、環境省野生生物保護センターの田中詩織氏から、交通事故に遭ったイリオモテヤマネコの治療や野生復帰までの取組を、初公開の動画を交えて発表していただきました。



2021年度夜間パトロール

2021年度は、後良～船浦、中野～白浜の2区間で計196回のパトロールを実施しました。速度を計測した3785台の速度を分析したところ、平均速度は38.7km/hと、過去最低だった昨年(39.2km/h)をさらに下回るデータとなりました。速度を順守して走行している車両の割合も62%と過去最高となっています。最近はやまねこの目撃情報を提供していただくことも、とても多くなりました。

通行車両の速度データ



2022年の交通事故は現在0！

2022年は(6月6日現在)イリオモテヤマネコの交通事故は発生しておりません。昨年5頭が既に事故死してしまったことや、今年の西表島は春先から雨が多かったことも影響しているのかもしれませんが、5月に入ってから島内各地で道路に出没する親子ネコ、仔ネコの姿が目撃されるようになってきました。これから秋にかけて母ネコは仔ネコを育てるために積極的に狩りをしますが、道路で轢かれて死んだ小動物を簡単に食べることができると学習してしまうと、繰り返し路上に出没するようになってしまうこともあります。やまねこパトロールでは、目撃多発地点でドライバーがいち早くヤマネコを発見できるように、草刈り作業を実施するとともに、夜間のパトロールでは路上のカエルやヘビなどの死骸を道路から除去する作業を続けています。これから梅雨明け、夏休みのシーズンも無事故で乗り切れるよう、新たなパトロール隊員も迎え入れ活動を強化する予定です。



西表トンネルの東で出没している仔ネコ
画像提供:国井健二氏(メラウリソート)

寄付のお願い

コロナも落ち着いてきて、観光客が増えてきています。これからは子育て中の母ネコが子連れて道路に出て来たり、車にまだ慣れていない独り立ちしたばかりの若ネコの交通事故が心配されます。1日6000円の夜間パトロールへのご寄付をお願いします!(目標40万円)

アースデイ東京に参加しました 2022.4.16-17

3年ぶりのアースデイ東京、来場者がどれくらいいるか不安でしたが、初日、2日目ともに大盛況でした。さわやかな青空の下で、皆さん久しぶりのアースデイを満喫していらっしゃったようです。真年なので、トラがずっと野生で生きながらえることを祈って、グッズや寄付で応援くださった方たちに縞模様を足していただき、元気なトラになりました。



横浜市金沢動物園イベント

「Save the Animals ~わたしたちの仲間が減っている~」に参加しました 2022.5.3・4

日本一長い象牙をもつオスゾウ「ボン」を飼育している金沢動物園でのイベントにお声がけいただきました。JTEF 坂元事務局長の特別インタビュー動画を園内で流しグッズ販売にもご協力いただきました。「ボン」の長大な牙は、悲しいことに野生ではもはや見られないと思います。



イリオモテヤマネコの日記念オンライン講座「知ろう！学ぼう！イリオモテヤマネコ」

後援 環境省、竹富町 2022.4.23

今年のイリオモテヤマネコの日4月15日は、一週遅くオンラインで行いましたが、島の方たちだけでなく、日本国内色々な場所からご参加くださいました。今回は環境省野生生物保護センターの方と共に、より具体的なヤマネコの現状がお分かりいただけたと思います。子どもたちからの質問も嬉しかったです。ご参加の皆さま、有難うございました。参加者22名



JTEF第4回オンラインイベント「寅年2022年を『トラを救う年』に！」

2022.1.22

活発に質問やご意見を発していたいただき、大変励みになりました。次の寅年にも野生のトラがトラらしくいられることが皆の思いです。ご参加くださった方々、ありがとうございました！参加者37名

JTEF第5回オンラインイベント「野生動物を守るには」開催

2022.4.30

JTEFのトラ、ゾウ、イリオモテヤマネコを担当してきたスタッフ3名が、実際の保護活動を通じて見出したことを、経験談とともに語りました。音響環境に不備があり、聞きづらい点があったことをお詫びします。次回のオンラインイベントではご満足いただけるように準備しています。ご参加くださった皆さま、有難うございました。参加者43名

JTEFの賛同者

- 相澤登喜恵さん(動物肖像画家)
- 新井晴みさん(俳優)
- 池田卓さん(シンガーソングライター)
- 井上奈奈さん(現代アーティスト)
- 岩田好宏さん(子どもと自然学会顧問)
- 牛越峰統さん(一般社団法人日本プロサーフィン連盟名誉顧問)
- 大森享さん(元北海道教育大学教授)
- 岡田彰布さん(野球評論家)
- 小川潔さん(東京学芸大学名誉教授)
- 加藤登紀子さん(シンガーソングライター)
- 蟹江杏さん(版画家)
- 見城美枝子さん(青森大学副学長・エッセイスト)
- 巨勢典子さん(作曲家・ピアニスト)
- 小林裕児さん(画家)
- 権藤真禎さん(元社団法人兵庫県自然保護協会理事、元神戸市立王子動物園園長)
- 坂本美雨さん(ミュージシャン)
- 沢田研二さん(歌手)
- 瀬木貴将さん(ミュージシャン、JTEF野生動物親善大使)
- 田中豊美さん(動物画家)
- 田中裕子さん(俳優)
- 田畑直樹さん(公益財団法人日本動物愛護協会理事長)
- 土居利光さん(前恩賜上野動物園園長、日本パンダ保護協会会長)
- 並木美砂子さん(帝京科学大学教授)
- 根本美緒さん(フリーキャスター・天気予報士)
- 南ぬ風人まーちゃんうーぽーさん(三線アーティスト)
- ヒサクニヒコさん(漫画家)
- 平岩弓枝さん(作家)
- 福井崇人さん(2025PROJECT 理事)
- 福田豊さん(恩賜上野動物園園長)
- 藤木勇人(志いざー)さん(作家)
- 古沢広祐さん(國學院大学研究開発推進機構客員教授)
- 前川貴行さん(動物写真家)
- 松田陽子さん(シンガーソングライター)
- 水野雅弘さん(株式会社TREE 代表・プロデューサー)
- 三石初雄さん(東京学芸大学名誉教授)
- 宮下実さん(ときわ動物園名誉園長・元近畿大学教授・大阪市天王寺動物園名誉園長)
- 村田浩一さん(日本大学生物資源科学部特任教授)
- 森川純さん(酪農学園大学名誉教授)
- 山極壽一さん(総合地球環境学研究所所長、前京都大学総長/進化論・生態学・環境生物学・動物学)
- 山崎薫さん(学校法人ヤマザキ学園理事長)
- 吉野信さん(動物自然写真家)
- 渡辺貞夫さん(ミュージシャン)

五十音順

JTEFの活動をご支援ください！

JTEFの活動は、皆さまからのご寄付で支えられています。野生動物と私たちの豊かな自然環境を守るために、ぜひ私たちの活動をご支援ください。

年間サポーター費・随時(任意額)寄附のお支払方法

JTEFのウェブサイトから、クレジットカードで簡単にご寄附いただけます。
www.jtef.jp または「トラゾウ」で検索

郵便振替でもご寄附いただけます。

ゆうちょ銀行
口座番号: 00170-7-355897
加入者名: トラ・ゾウ保護基金

お知らせ



世界トラの日 @上野動物園

2022 7/29(FRI) 30(SAT) 31(SUN)

アース出展

寅年の今年、上野動物園での世界トラの日イベントの復活でJTEFは3日間出展します。詳細は上野動物園、JTEFのHPをご確認ください。

世界ゾウの日 @横浜市金沢動物園

8/6(SAT) スーレゾウマナー養成講座

8/13(SAT) 14(SUN)

アース出展

小学4年～6年生の子どもたちを対象に、長い象牙をもつボンを見ながら、ゾウのことを考える時間です。事前予約制なので、金沢動物園、JTEFのHPからご確認ください。

夜の動物園開催中のため午後4時から7時半まで。



認定NPO法人
トラ・ゾウ保護基金
http://www.jtef.jp/

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-5-4 末広ビル 3F
Tel : 03-3595-8088 Fax : 03-3595-8090
E-mail : hogokikin@jtef.jp https://www.jtef.jp
郵便振替口座：ゆうちょ銀行 口座番号)00170-7-355897
加入者名) トラ・ゾウ保護基金

トラ保護基金通信 vol.39
ゾウ保護基金通信 vol.36
イリオモテヤマネコ保護基金通信 vol.25
発行人・編集：戸川久美
発行日：2022年6月30日